

平成30年度 第2回 学校関係者評価委員会議事録【こども環境科・介護環境科】

日 時 平成31年2月14日（木）16:00～17:20

場 所 学校法人 北海道学院 釧路専門学校 3階 第7講義室

出席委員 小野 信一 (北海道社会福祉協議会 釧路地区事務所 所長)
諫山 邦子 (北海道教育大学釧路校 教育学部 准教授)
工藤 映美 (釧路市私立幼稚園連合会 理事・認定こども園よしの 副園長)
住尾 盛 (昭和2丁目町内会 会長)

出席職員 種市 司 (釧路専門学校 校長)
阿部 みつゑ (釧路専門学校 副校長)
氏原 陽子 (釧路専門学校 こども環境科学科長)
渡邊 千華子 (釧路専門学校 介護環境科学科長)
田仲 京子 (釧路専門学校 こども環境科教員)
杉村 典史 (釧路専門学校 教務主任)
若生 みゆき (釧路専門学校 事務主任)

欠席者 伊東 義光 (日本介護福祉士会北海道支部根釧地区支部 支部長
道東勤医協 ヘルパーステーションすこやか 所長)
洒井 恵 (釧路市私立保育園連合会 会長・釧路あさひ認定こども園 園長)

配付資料 ①平成30年度 第1回 学校関係者評価委員会議事録
②平成30年度 学校自己評価の結果
⑤平成30年度 学校関係者評価の為の資料 (学校案内・募集要項・学則・学生のしおり)

開会宣言 (杉村)

開会にあたって

- 1 挨拶 (阿部)
- 2 司会者の決定

次第

- 1 平成30年度 第1回 学校関係者評価委員会議事録の確認 (若生) 資料①参照
- 2 平成30年度 学校関係者評価結果について 資料②参照

(1) 報告 (種市)

(2) 報告に対する質疑応答

住尾委員

学生の欠席や退学について、本人が望んで入学しているはずなのに、現状を聞き違和感を感じた。学生の意識も高いと思っていた。

学校側回答 (氏原)

入学の動機が弱い学生がいる。子どもが好きだと思っていたが、入学してみたら違った等。人間関係に悩み、退学してしまうケースもある。

(渡邊)

家庭環境の問題で、登校できなくなったケースや、適性の不一致で退学した例もある。また、本当にやりたかった分野ではなく、なんとなく入学した学生が退学になってしまった。一方で、やる気があり主体的に活動できる雰囲気のあるクラスは、相乗効果で良い方向に行くケースもある。

住尾委員

教員のコミュニケーション能力を活かし、卒業まで導いて欲しい。

アルバイトを雇っている企業側として、アルバイトが原因で学業が疎かにならないよう、実習中はお休みをとれる。他に要望があれば対応できるので、学校が望むアルバイトの範囲を知りたい。

小野委員

TA体制等、学科を超えて学生が教員に相談できる対応をしていることを評価したい。

諫山委員

退学者が多い学年がある。悪い波が来たと考える。教育活動は、非常勤講師も含め共通理解できているのか？

学校側回答 (氏原)

関連がある科目で、伝えなければならないことが抜け落ちることがないように、対策を取る事ができたら良いと思っている。講師が集まって話す機会があれば良い。

工藤委員

保護者と話し合いを持つ企画は難しいと思うが、保護者懇談会は年何回程開催しているのか？また、形式は？

学校側回答 (種市)

年に1回を予定しているのみ。各クラス、数人程度しか集まらないのが現状で、個人懇談のようになっている。

(渡邊)

「困り感」のある学生の保護者には、こまめに連絡を取り距離を縮めながら近況報告を行っている。

工藤委員

職員研修について、市内等の研修は少なく、遠方に出向くと1日単位で拘束されてしまう。専修学校にかかわる研修はどのくらいあるのか？

学校側回答 (氏原)

全国セミナーや学会の大会に出席するとなると、2泊以上必要な場合もある。業務の為、日程もなかなか合わず、宿泊費や移動費を考えると、行きたくても行けない状況がある。

(渡邊)

学校で開催できる学習会はなるべく参加してもらっている。

小野委員

移動せずに学べるシステムを生み出すことも必要かもしれない。

介護の助成事業があるなら、是非また開催して欲しいと思う。各財団も利用して欲しい。

学校評価は、フィードバックされることが大切。1つでも具体化すれば、職員の意識が高まる。

諫山委員

学校祭には、保護者は参加されるのか？また、次年度の入学生状況を知りたい。

学校側回答 (種市)

学校祭に保護者は来校してくれる。遠方からも見える。

次年度の状況について、こども環境科は今年度と同じくらい。介護環境科は少しマイナスになるのではないかと予想している。

工藤委員

当園でも、小さいうちから介護の事を知る活動を今後も継続していきたい。

閉会の挨拶 (種市)

以上
(記録：若生)